

一般質問のようすは、インターネットで配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます。(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です)

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。12月定例会では、17名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。

通学路の安全対策／障害者福祉の充実

船川 秀子 (公明党)



録画配信の2次元コード

◆通学路の安全対策

子どもたちの安全・安心のために学校、保護者、地域、行政、警察などが連携し、継続した交通安全、防犯推進体制を構築することが必要と考えるが教育長の見解は。

教育長 令和7年度までに全小中学校でコミュニティ・スクール化が図られる予定であり、学校と地域がこれまで以上に連携・協力する体制づくりがさらに強化されることが期待される。今後も、地域とともにある学校づくりを推進していくとともに、関係各所と連携した交通安全、防犯推進体制を継続するように努めていく。



通学路の安全・安心のために

◆障害者福祉のさらなる充実に向けた支援強化

①支援が必要な方に継続的に関わる伴走型支援の重要性についての認識は。

②アウトリーチによる支援、伴走型支援強化のため専門職を確保する考えは。

福祉部長 ①アウトリーチなどの方法により、課題解決まで複数の機関で訪問を継続する伴走型支援については、何度も訪問することで信頼関係を構築できることや、対象者自身の困り感、近隣に対する迷惑行動などの希薄な意識を改善する効果があり重要と考えている。

②現状も精神保健福祉士などの専門職を配置しているが、ひきこもりや近隣への迷惑、支援拒否などの相談も増加しており、心理・精神保健分野の専門職の配置はますます重要になると認識している。

その他のテーマ

- ▶通学路の防犯 ▶子ども110番の家 ▶子ども誰でも通園制度と一時保育

消防防災の連絡支援体制／交通事故防止対策

酒井 英男 (健政会)



録画配信の2次元コード

◆消防団活動支援や防災連絡体制

①消防団活動に対する消防署の支援体制は。

②消防の指令センターと災害情報を共有するシステムの整備は。

危機管理監 ①消防団と狭山消防署は、災害現場において、消防の広域化以前と変わらず、現在も密接に連携し対応している。また、狭山消防署からは、消防団の教育研修や各種訓練、特別点検など、消防団の諸行事に至るまで、手厚い支援をいただいております。狭山消防署の協力があってこそ成り立っているものと認識している。

②大規模な災害が発生した場合には、市や消防署はもとより、多くの災害対応機関が、正確な情報を、即時に共有するとともに一元化し、事態に対処することが重要になる。災害の発生を迅速

に把握できる仕組みを整備することについては、地域防災力の強化につながるものと考えられるので、来年4月からの新たな指令センターの運営を契機に、埼玉西部消防組合の構成市とともに検討していく。



◆道路路面標示の修繕対策

横断歩道など路面標示の修繕や住宅街の抜け道安全対策は。

市民部長 市民からの情報提供により確認された場所については、現地確認を行い路面標示や注意喚起看板などにより速度抑制の対策を行っている。また、警察による巡回などについても必要に応じて依頼している。今後も、路面標示については安全・安心に配慮し、効果的・効率的に修繕を実施していく。

災害の未然防止は河川改修などの強靱な社会基盤整備が必要

千葉 良秋 (健政会)



録画配信の2次元コード

- ①入間川流域の雨量と水位上昇の相関を狭山市のタイムラインにどのように活用しているか。
- ②入間川、不老川の河川改修の進捗状況と今後の計画は。
- ③久保川など小河川の改修計画は。

危機管理監 ①熊谷地方気象台の「防災気象情報」や県の「川の防災情報」などのインターネットや、上流域の自治体などから情報収集を行うとともに、上流域の雨量や水位を注視し、風水害対応に関するタイムラインに活用している。

都市建設部長 ②入間川については、現在、県が上奥富堰から下流の一部河道断面の狭隘箇所を解消し構造物の損壊を防止すべく、護岸の改修などを行っている。不老川未整備区間の西武新宿線上流の約1.2kmについて、事

業を進めるにあたり、下流域の堀兼地区で溢水が発生するおそれがあり、調節池の築造に向け地形測量などを実施し、調節池整備の候補地の選定を行い、関係者へ用地交渉を進めていくと伺っている。

都市建設部長 ③令和元年台風19号の影響により平ブロック護岸が約10m崩落したことから、応急的な復旧修繕を実施しているが、近年の異常気象などの影響により大雨が発生し、局所的に護岸が洗掘され被害が発生している。これらを踏まえ、河川内に段差を設け急な勾配を緩和し、水の流れを弱め河床の安定を図り、護岸の損壊を防ぐよう、改良工事を実施する予定。



平ブロック護岸崩壊のようす

- その他のテーマ▶ 災害時の通学路安全確保 ▶避難行動要支援者の避難

高齢者の終活支援

関根 弘樹 (公明党)



録画配信の2次元コード

◆単身高齢者の人数増加

狭山市における65歳以上の単身者の人数、推移、傾向は。

福祉部長 令和2年の国勢調査時で65歳以上の単身者は8,064人。推計では7年頃におよそ1万人となり、高齢人口がピークを迎える22年頃まで増加を続けていく。

◆エンディングノートの普及について

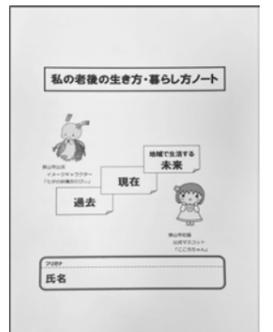
終活支援事業として、市が重視している「エンディングノート」の普及状況は。

福祉部長 さやま成年後見センターや在宅医療支援センターで、後見人相談や医療相談などの際に配布しており、作成した市民からは「将来的な心配事が減った」との声もいただいている。

◆単身高齢者の不安に答える行政の仕組みづくりを!

家族の有無に関わらず、高齢者の誰もが安心して生き、亡くなった後も尊厳が守られる仕組みについて、市としての見解は。

福祉部長 尊厳を守る仕組みの一つとして、本人が意思をまとめ、死後の手続きなどに関して明らかにするエンディングノートの普及が必要と考える。エンディングノートに記入された内容を実施し補完するために、他自治体で取り組んでいる「終活情報登録制度」や「エンディングプラン相談事業」などがあり、狭山市においての適切な仕組みを調査研究していく。 狭山市のエンディングノート



狭山市のエンディングノート

その他のテーマ▶ 老朽化するインフラのメンテナンス